



逸品
02

マイスターが作る
ハム&ソーセージセット

★★★★



「肉の味と香りで一関の風土を感じてほしい」

ハムとソーセージには、栗駒山の麓の自家農場でのびのびと育てた豚をまるごと使用。素材のおいしさを生かす本場ドイツの手法でじっくりと作り上げています。細部にまでこだわった肉の味と香り、一関の風土を感じてほしいです。

地域イベントでも行列ができるほど好評な当社のハムとソーセージ。地元で愛されてこそ、他地域にも発信できると考えています。一関の自慢の一つになればうれしいです。

石川貴浩さん

㈱一関ミート/
ドイツ食肉加工
マイスター



profile いしかわ・たかひろ

1969年秋生まれ。92年、一関ミートに入社。93年、ハムソーセージ技術習得のためドイツへ渡る。96年に食肉加工ゲゼレ(職人)資格を取得。2000年、念願の食肉加工マイスター試験に合格し、同年帰国。県の青年卓越技能者表彰を受けるなど、その技術は高く評価されている



1 自家農場で育てた豚をまるごと使用したソーセージ。桜の木でいぶした肉の香りが食欲をそそる / 2 地元イベントでは、ブース前いつも長蛇の列ができる

「一輪一輪、愛情を込めて育てています」

瀬川つづみさん

花泉観光開発㈱/
花と泉の公園
「ペゴニア館」担当



profile せがわ・つづみ

1979年生まれ。花泉町出身。東日本大震災を機に、花泉観光開発㈱に入社。担当する「ペゴニア館」の展示では流行を積極的に取り入れている。そのセンスを生かして「スイーツバイキング」などの企画も手掛ける。大のネコ好き

「花と泉の公園」は「ぼたん園」「ペゴニア館」などがあり、多彩な花を楽しめます。特に5月上旬～6月上旬に行われる「ぼたんしゃくやく祭り」は大盛況。大輪のボタンは見ごたえがあります。

ペゴニア館では、色鮮やかな鉢植えを1年中観賞できます。肥料や水やりはほとんどが手作業。一輪一輪、愛情を込めて育てています。

地域に愛されて21年。1年中観賞し放題のパスポートで、自慢の花々を見に来てほしいです。



1 公園内のぼたん園に咲き誇るボタン。その優雅さと豪華さで百花の王ともいわれる / 2 「ぼたんしゃくやく祭り」では、最盛期の花々を楽しもうと多くの観光客が訪れる



逸品
01

1年間観賞し放題
「花と泉の公園」のパスポート

★★★★



本市への寄付者に贈られる返礼品は、生産者の地元愛にあふれ、根強い人気のものばかりです。地域のために作られ、地域に愛されている品だからこそ、感謝のカタチとして贈りたい。一関の返礼品には、そんな思いが込められています。

地域で愛される品を贈る

過熱する「返礼品競争」
各自自治体が、寄付の特典として、特産品などを贈る「返礼品」。地域のアピールや産業振興に役立つものの、自治体間の競争が過熱する原因にもなっています。昨年、換金性の高い金券などの返礼品を見直すよう、総務省が各自自治体に通達。行き過ぎた「返礼品競争」に歯止めをかけようとしています。
高額な返礼品のために自治体が疲弊するのは本末転倒。豪華さを競うのではなく、ふるさとを思う気持ちが大切ではないでしょうか。

2 感謝のカタチ
It is a present for you.
地元の愛情がたっぷり
込められた極上の逸品。

花と緑を一年中楽しめるパスポート。栗駒山の麓で育った豚をまるごと使った極上のハムとソーセージ。メダカが棲む澄んだ水田で作られた香り高い特別栽培米。ここでしか味わえない感動を届けます。

1万円以上の寄付でもらえる。魅力的な 26種の返礼品



市外の方が本市に1万円以上を寄付すると、特典として26種類の中から返礼品を選べます。どれも地域色豊かなものばかり。詳しくは市ホームページ (<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/7,0,154.html>) で確認することができます。



本庁いきがづくり課 ☎ 0820

返礼品は、市のPRを兼ねていません。そのため、市内在住の人は返礼品の対象外です。親戚や友人など、市外の人に本市へのふるさと納税を勧めてください。
たくさんの人に一関の魅力に触れてほしいことから、特典の送付は「1年間に1回まで」に限定しています。

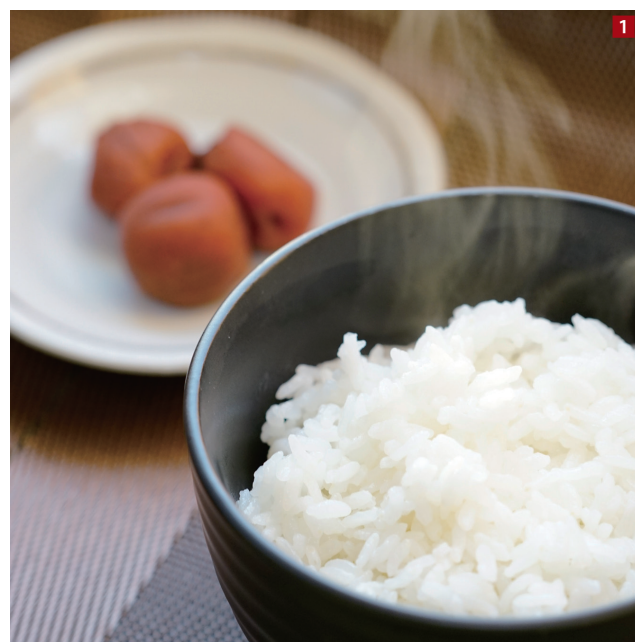
返礼品は「市外の人」が対象
特典は1年間に1回まで



小山貴史さん
本庁いきがづくり課
ふるさと納税担当



1 やさしい香りと甘みが特徴のめだか米 / 2 昨年10月のめだか米の収穫祭。岩手大の学生のほか、全国から集まった若者らが手刈りに挑戦 / 3 水田と水路をのびのびと行き来するメダカ / 4 めだか米のファン。神奈川県相模原市の石黒文織さん



逸品
03

メダカの里で育った
川崎町門崎の「めだか米」

★★★★



「次世代を担う子供たちに豊かな環境を残したい」

「めだか米」は、メダカが元気に泳ぐ門崎地区の水田で生産された希少価値の高いお米。環境にこだわった安心・安全なめだか米は、地元だけでなく、県内外の人からも好評です。

絶滅危惧種に指定されている門崎のメダカ。岩手大の広田純一教授から生態を学び、「メダカ水路」の設置や草刈りを行って生育環境を整えました。

次世代を担う地元の子供たちのために、門崎の恵まれた環境を残したいと願っています。

千葉榮恒さん

農業組合法人
門崎ファーム
代表理事組合長



profile ちば・えいこう

1942年生まれ。2002年に川崎村役場を退職後、13年に門崎ファームを設立。同年、同代表理事組合長に就任。現在、186人の組合員と共に、地域の食と環境を守る活動に打ち込んでいる。モットーは「継続は力なり」。自宅の畑ではホウレンソウ、大根や白菜なども生産している